

サーバー業務支援システム P o s P o s V e r 3

第 1 部

周辺機器接続ガイド

OPOS ドライバーインストールガイド

tesseract-ocr インストールガイド

買取業務・販売業務をご使用になる場合、またはレシートプリンタ・ラベルプリンタやカスタマディスプレイ・キャッシュドロアを接続して、ご使用になる場合は、エプソンの OPOS ドライバをインストールして下さい。

(商品検索のみで使用する場合は、OPOS ドライバのインストールは必要ありません)

2013年06月17日

有限会社サーバー

プログラム開発元：サーバーシステムズ

始めに

この度は、サーバー業務支援システム P o s P o s をお使いいただき誠にありがとうございます。
下記注意事項をご確認の上ご使用ください。

<注意事項>

本ソフトウェア製品の著作権は有限会社サーバーが所有します。

本ソフトウェア製品は使用を許諾されるもので、販売されるものではありません。

本ソフトウェア製品の使用で生じたいかなる障害・損害につきましても一切責任をおいしません。

目次

はじめに.....	2
目次	3
対応するパソコン環境	4
必要なシステム構成	4
周辺機器について.....	5
動作確認済み周辺機器.....	5
使えるようにするための準備	6
1. EPSON のホームページより OPOS ドライバのダウンロードと解凍	7
2. EPSON OPOS ドライバのインストール	11
3. POS 周辺機器の接続	14
4. EPSON OPOS ドライバの設定.....	15
OPOS ドライバの起動	15
レシートプリンタの設定	15
カスタマディスプレイ（ラインディスプレイ）の設定	20
キャッシュドロアの設定	25
ラベルプリンタの設定.....	30
5. TM-L90 の設定について.....	36
TM-L90 のラベル用紙幅の設定	36
TM-L90 の印刷濃度の設定.....	39
6. tesseract-ocr インストール	41

対応するパソコン環境

必要なシステム構成

本ソフトウェアは、下記の環境で動作するように設計されています。

動作環境

WindowsXP SP3 日本語版／Windows7 日本語版／VISTA 日本語版／Windows8 日本語版のいずれかが動作するパソコン。（注意）本ソフトウェアは、Microsoft Access2010 ランタイムを使用しています。

また、データ量によって快適にお使い頂ける環境が違ってきます。下記の動作環境は正常に動くことを確認しています。

		推奨構成
CPU	Pentium3 1GHz 以上	Pentium4 1.3GHz 以上
メモリ	256MB 以上	512MB 以上
ハードディスク	3G 以上の空き容量	←
モニター	800×600 以上のモニター	1024×768 以上
周辺機器	レシートプリンタ (レジ機能として使う場合に必要です。 商品検索だけで使う場合は不要です)	バーコードリーダー カスタマディスプレイ キャッシュドロア ラベルプリンタ

推奨構成のCPU性能、搭載メモリは、データ量（商品アイテム）280,000 タイトル、販売データ 1,000,000 件、買取データ 1,000,000 件で使用して、店頭業務に支障なく使用できる構成です。（弊社直営店で実際に使用しています）

周辺機器について

動作確認済み周辺機器

下記のPOS周辺機器は、当社で動作を確認しています。

周辺機器	
バーコードリーダー	バーコードをスキャンしたとき、キーボードの数字入力と同じ動きをするバーコードリーダー
レシートプリンタ	エプソン製レシートプリンタ TM-T88Ⅲ(80 ミリタイプ) エプソン製レシートプリンタ TM-T88Ⅳ(80 ミリタイプ) エプソン製レシートプリンタ TM-T70(80 ミリタイプ) エプソン製ラベルプリンタ TM-L90
カスタマディスプレイ (ラインディスプレイ)	エプソン製カスタマディスプレイ DM-D202Ⅱ エプソン製カスタマディスプレイ DM-D210ST エプソン製カスタマディスプレイ DM-D500
キャッシュドロア	エプソン製キャッシュドロア DSA-35ED エプソン製キャッシュドロア DMA-48ED
ラベルプリンタ	エプソン製ラベルプリンタ TM-L90

・TM-T88Ⅱは、エプソン OPOS Ver2.67 ではサポートされていませんが、OPOS のプリンタデバイスを「TM-T88Ⅲ」で登録し「デバイス固有の設定」の「データ送信が完了した時点印刷完了とする」にチェックをいれることで、使えるようになります。下記（注意1）参照

・バーコードリーダーは、商品にのっているバーコードを利用して商品の検索・販売業務での商品登録・買取業務の商品登録などに使用します。業務の効率化のためにご用意頂くことをお勧めします。

・レシートプリンタは、販売伝票や買取伝票を発行するときに使います。また、点検や精算業務、値札カードの作成、順番待ちレシート・番号レシートの発行など、当ソフトウェアをレジとしてご使用になる場合は、ご用意頂くことをお勧めします。

・カスタマディスプレイは、お客様側に金額を表示するためのものです。その必要が無ければ特に準備されなくてよいと思います。

・キャッシュドロアは、お札や小銭等の現金を入れるものです。レジとして使う場合、あると便利です。

・ラベルプリンタはシールタイプの値札を作成するために使います。シールタイプでの値札の出力が必要でない場合は、レシートプリンタで対応できます。

（注意1）

- ・ TM-T88Ⅱを使用して印字する場合、まれに、レシート内容が2重に印刷される不具合があります。
- ・ TM-T88Ⅱを使用する場合は、ファームウェア Ver3.42 以上が必要です。
- ・ TM プリンタのファームウェアバージョンの確認は、セルフテスト(FEED ボタンを押しながら電源を ON)の印刷結果の1行目に印字されます。
- ・ ファームウェアのバージョンアップは、エプソンのインターネットサイト <http://www.epson.jp/support/other/info.htm> へお願いします。

POS 周辺機器につきましては、弊社で特別価格にて販売しております。

POS 周辺機器の接続は、EPSON OPOS ドライバのインストールが終わって接続してください。

使えるようにするための準備

サーバー業務支援システム PosPos を使うための準備は次の手順で行います。

1. EPSON のホームページより OPOS ドライバのダウンロード
2. EPSON OPOS ドライバのインストール
3. POS 周辺機器の接続
4. EPSON OPOS ドライバの設定
5. サーバー業務支援システム PosPos のインストール
(マニュアル「第 2 部 サーバー業務支援システム PosPos インストールガイド」を参照下さい)
6. サーバー業務支援システム PosPos の初期設定
(マニュアル「第 2 部 サーバー業務支援システム PosPos 初期設定ガイド」を参照下さい)

1. EPSON のホームページよりOPOSドライバのダウンロードと解凍

POS周辺機器を制御するためのドライバ(EPSON OPOS ドライバ)をダウンロードします。

レシートプリンタ・カスタムディスプレイ・キャッシュドロア・ラベルプリンタのOPOS周辺機器の制御に使用します。これらの周辺機器を制御するドライバはPOS製品にはついていません。エプソンのホームページより対応したドライバを入手してください。

OPOSドライバの入手先

インターネットを利用して、エプソンのWEBサイトから「EPSON OPOS ADK Ver2.67J」か「EPSON OPOS ADK Ver2.68J」をダウンロードします。

当ソフトウェアは、Ver2.67J と Ver2.68J で動作を確認しています。

ダウンロード先 <http://www.epson.jp/download/>



下へスクロールします。



- ① インターネットに接続し、
<http://www.epson.jp/download/> に
アクセスします。
(クリック)
「POS 端末」をクリックしま
す。
- ② (クリック)
「POS 用端末・POS 周辺機器」
の
「ドライバ・ソフトウェア」をク
リックします。
- ③ (クリック)
「EPSON OPOS ADK」をクリッ
クします。

(クリック)
「EPSON OPOS ADK Ver2.68J R2」をクリックします。



(クリック)
「EPSON OPOS ADK Ver2. 68J R2」のダウンロードをクリックします。



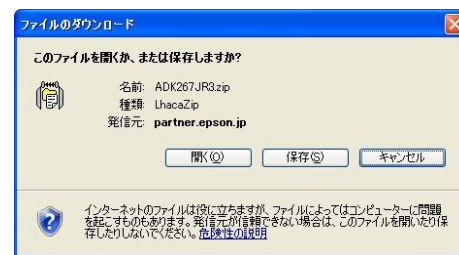
画面の指示にしたがい、会員登録をされログインして下さい。



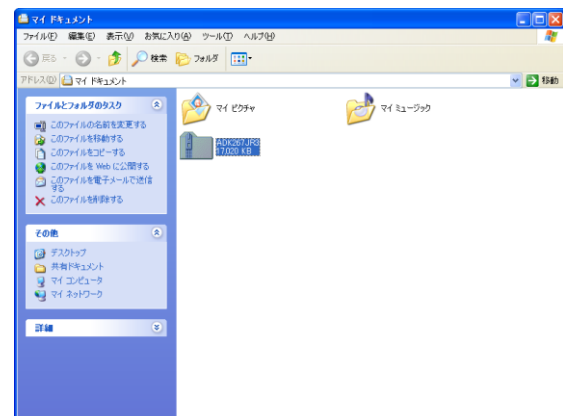
(クリック)
「承認してダウンロード」をクリックしてください。



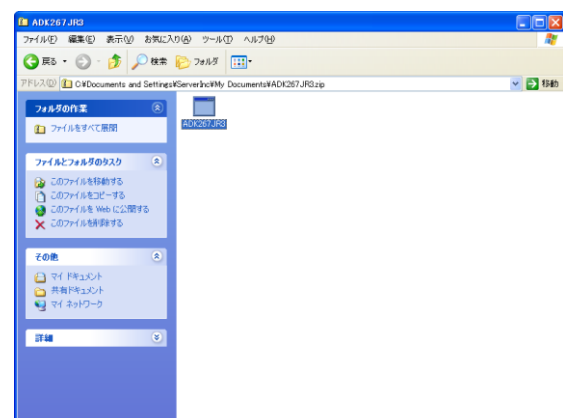
(クリック)
「保存」をクリックします。



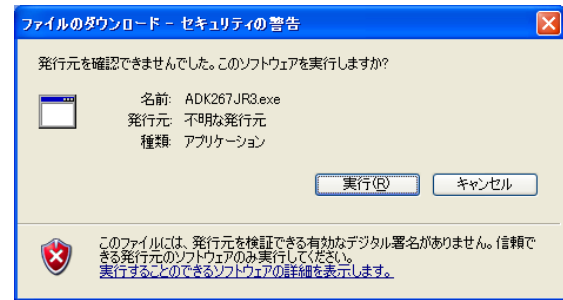
(ダブルクリック)
保存先の「ADK268JR2」ファイルをダブルクリックします。



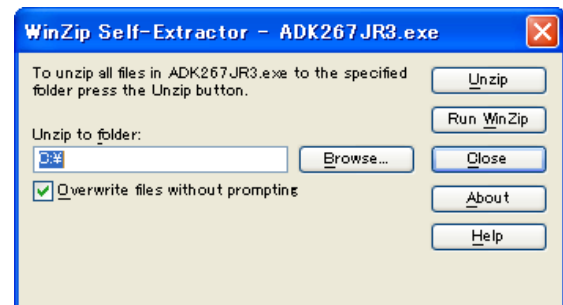
(ダブルクリック)
「ADK268JR2」をダブルクリックします。



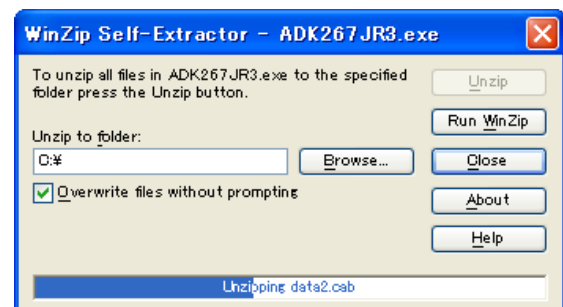
(クリック)
「実行」 ボタンをクリックします。



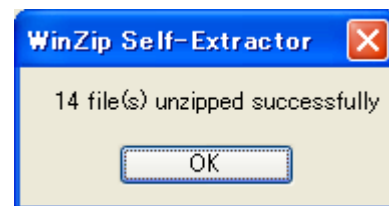
(クリック)
「Unzip」 ボタンをクリックします。



(クリック)
「OK」 ボタンをクリックします。
解凍がはじまります。

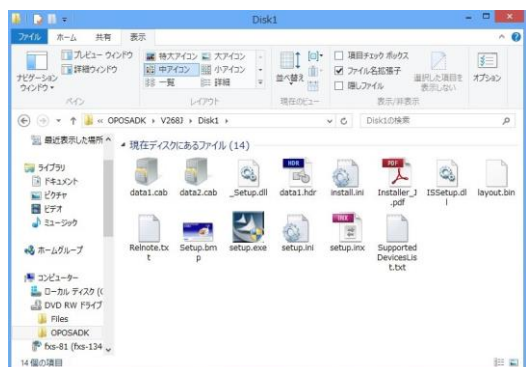


(クリック)
「OK」 ボタンをクリックします。
解凍が終わりました。



2. EPSON OPOS ドライバのインストール

EPSON OPOS ドライバのダウンロードと解凍が終わったら、OPOS ドライバのインストールをします。

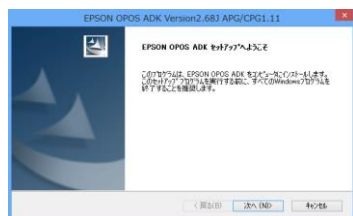


(ダブルクリック)

C : へを変更していなければ、下記フォルダの中の「Setup.exe」をダブルクリックします。

解凍先フォルダ

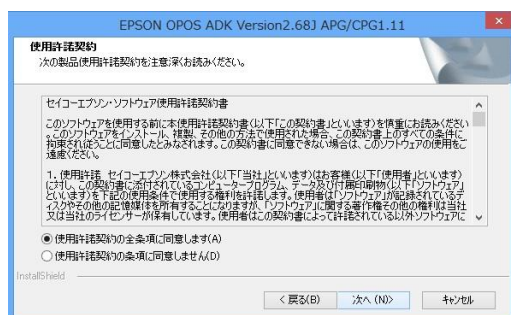
C:\¥OPOSADK¥V268JR2¥disk1



インストールが始まります。

(クリック)

「次へ」 ボタンをクリックします。



(クリック)

「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択します。

「次へ」 ボタンをクリックします。



(クリック)

「レジストリファイルは使用しない」を選択します。

「次へ」 ボタンをクリックします。



ユーザー標準を選択します。

(クリック)
「次へ」 ボタンをクリックします。



(クリック)
「次へ」 ボタンをクリックします。



使用するポート（POS周辺機器を接続するポート）にチェックを入れます。全てにチェックが入っていても問題ありません。

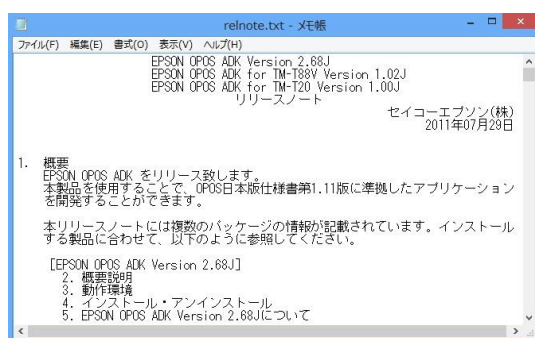
(クリック)
「次へ」 ボタンをクリックします。



インストールが始まります。



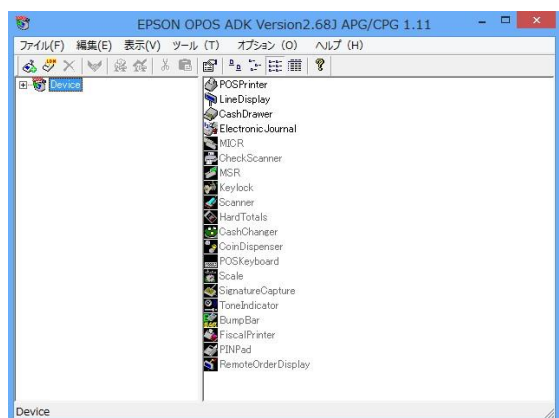
(クリック)
「完了」ボタンをクリックします。



(閉じる)
メモ帳が開き、リリースノートが表示されますので、メモ帳を閉じてください。



(クリック)
左の画面のように、ダウンロード完了後、「setupPOS Ver.2.00」と新たに表示されます。



左の画面が表示されます。

POS 周辺機器の接続に進んで下さい。

3. POS 周辺機器の接続

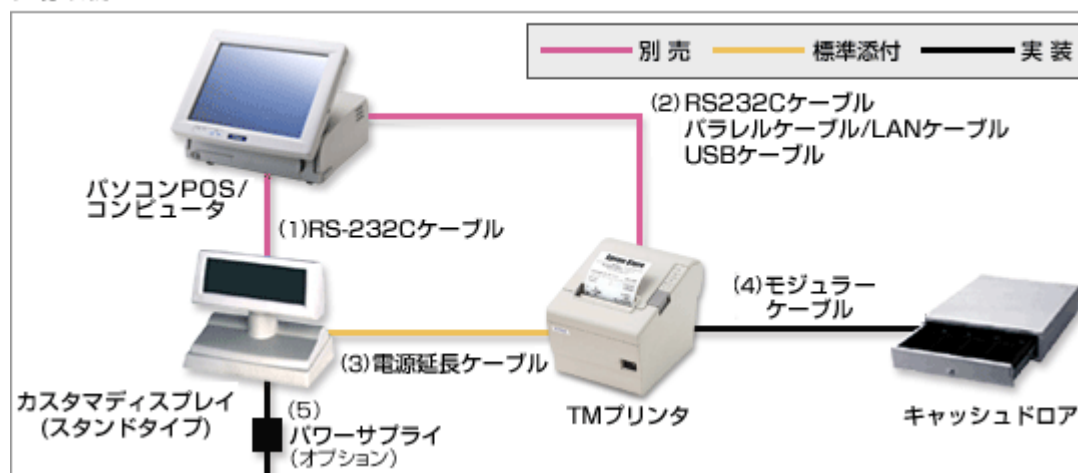
周辺機器の接続について

POS 周辺機器の接続は、EPSON OPOS ドライバのインストールが終わって接続してください。
ご使用のパソコン本体と POS 周辺機器を接続します。
エプソンのホームページを参考に周辺機器を接続してください。

<http://www.epson.jp/products/tm/setsuzoku/index.htm>

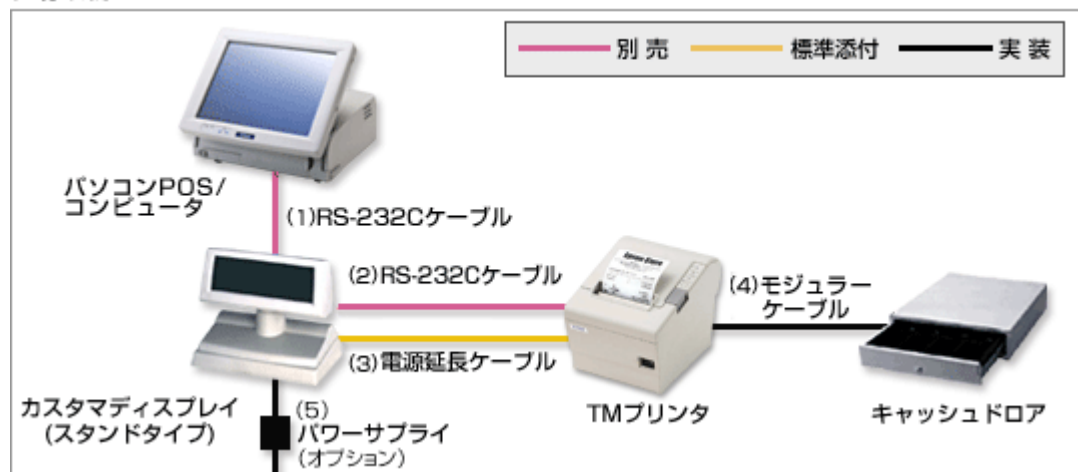
USB・パラレル接続の場合

配線接続例



シリアル接続の場合

配線接続例

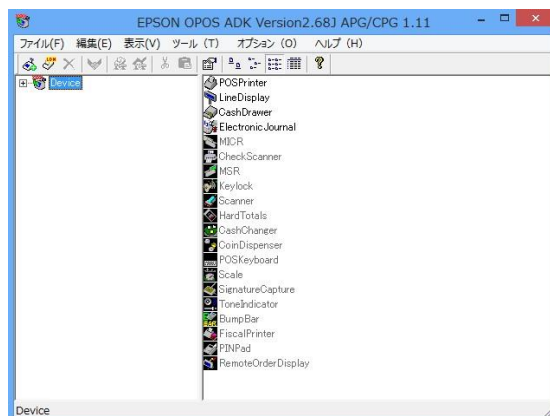


4. EPSON OPOS ドライバの設定

OPOS ドライバの起動

Windows の「スタート」－「setupPOS Ver.2.00」をクリックして起動させます。

「EPSON OPOS ADK Version2.68J APG/CPG1.11」下図（インストールしたバージョンによって少し違います）が表示されます。



レシートプリンタの設定

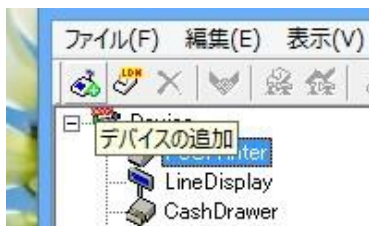
以下の設定例では、エプソン製レシートプリンタ、TM-T88Vを例にとって設定します。



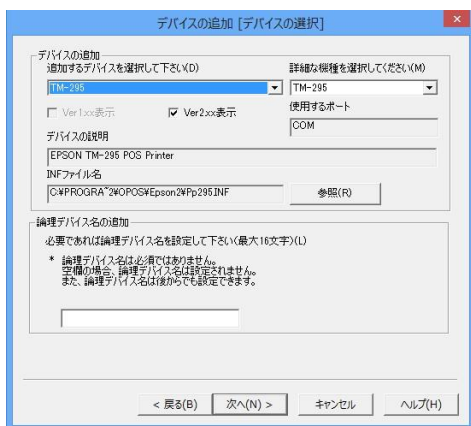
（クリック）
「Device」の前にある「+」をクリックします。



（クリック）
「POSPrinter」をクリックして選択状態にして下さい。



(クリック)
ツールバー上のデバイスの追加ボタンをクリックします。



「デバイスの追加 [デバイスの選択]」フォームが表示されます。



(選択)
「追加するデバイスを選択して下さい」のリストから使用するレシートプリンタを選択します。



(確認)
左図のように選択した機種が表示されます。

論理デバイス名の追加

必要であれば論理デバイス名を設定して下さい(最大16文字)(L)

* 論理デバイス名は必須ではありません。
空欄の場合、論理デバイス名は設定されません。
また、論理デバイス名は後からでも設定できます。

Unit1

(入力)

「論理デバイス名の追加」に半角英数字で「Unit1」と入力します。

注意：Uは大文字で入力して、あとのnit1は小文字で入力します。

デバイスの追加 [デバイスの選択]

デバイスの追加
追加するデバイスを選択して下さい(D) 詳細な機種を選択して下さい(M)

TM-T88VM TM-T88VM

☐ Ver1.0x表示 ☒ Ver2.0x表示 使用するポート

EPSON TM-T88VM POS Printer TMPORT

INFファイル名 参照(R)

C:\PROGRAMS\Epson2\PpT885M\INF

論理デバイス名の追加

必要であれば論理デバイス名を設定して下さい(最大16文字)(L)

* 論理デバイス名は必須ではありません。
空欄の場合、論理デバイス名は設定されません。
また、論理デバイス名は後からでも設定できます。

Unit1

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ(H)

(クリック)

「次へ」ボタンをクリックします。

デバイスの追加 [通信設定]

TMPORTの設定(P)

TMPORT (USB) [TM-T88VM] 左記ポートを使用中のデバイス(G)

ポートの作成(M) ポートの検出(U) (なし)

ポートの詳細設定

通信速度(B) []

ビット長(L) []

パリティ(Y) []

ストップビット(T) []

ハンドシェイク(D) []

対話式のCheckHealth(C) デバイス固有の設定(S)

< 戻る(B) 終了(F) キャンセル ヘルプ(H)

「デバイスの追加 [通信設定]」フォームが表示されます。

対話式のCheckHealth(C)

(クリック)

「対話式の CheckHealth」ボタンをクリックします。

ここでエラーが発生したときは、機器の接続が正しくされているか・USBポートの設定に間違いがないかを確認して下さい。



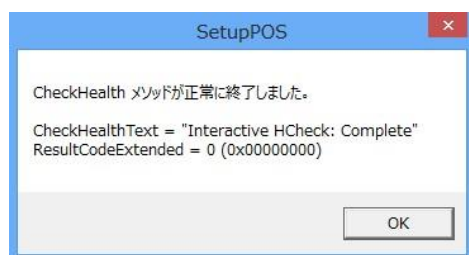
(クリック)
「実行」ボタンをクリックします。



(確認)
左画面のレシートが出力されます。



(クリック)
「終了」ボタンをクリックします。



(クリック)
「OK」ボタンをクリックします。

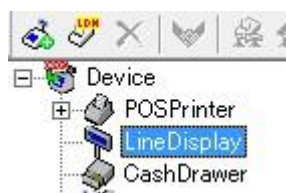
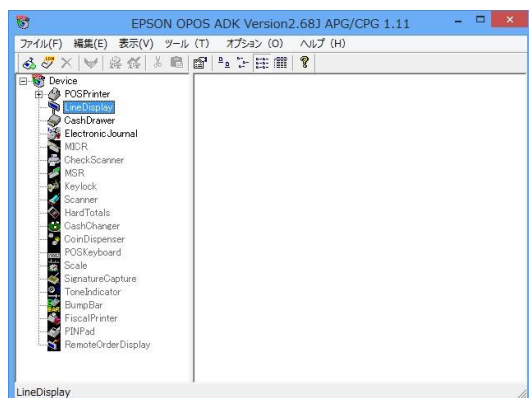


(クリック)
「終了」ボタンを押して下さい。

注意：必ず「終了」ボタンを押して終了してください。終了ボタンを押さずに、フォーム右上の閉じるボタン「×」でフォームを閉じられますと、設定内容は反映されません。

カスタマディスプレイ（ラインディスプレイ）の設定

以下の設定例では、エプソン製のカスタマディスプレイ DM-D500 を例にとって設定します。



(クリック)

「LineDisplay」をクリックして選択します。

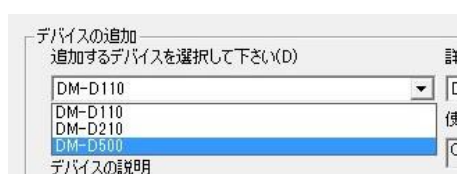


(クリック)

ツールバー上の「デバイスの追加」ボタンをクリックして下さい。

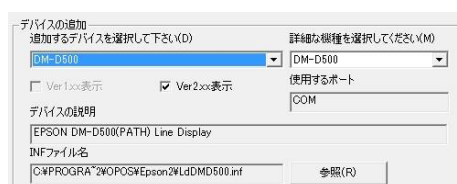


「デバイスの追加 [デバイスの選択]」フォームが表示されます。



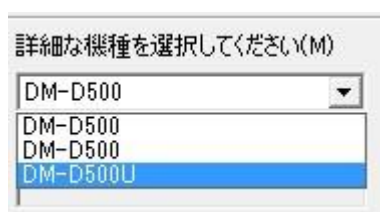
(選択)

「追加するデバイスを選択して下さい。」のリストから使用するカスタムディスプレイを選択します。



(確認)

左図のように選択した機器が表示されます。



(選択)

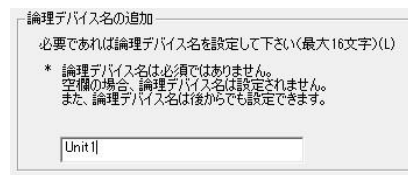
「詳細な機器を選択して下さい」のリストから詳細な機器を選択します。

この例では、USB 接続された TM-T88V プリンタにカスタムディスプレイを接続していますので、「DM-D500U」を選択しています。「使用するポート」を確認しながら、お使いの機種にあった詳細な機種を選択してください。



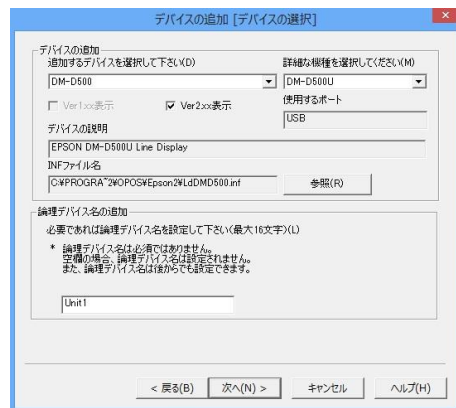
(確認)

左図のように使用するポートが表示されます。

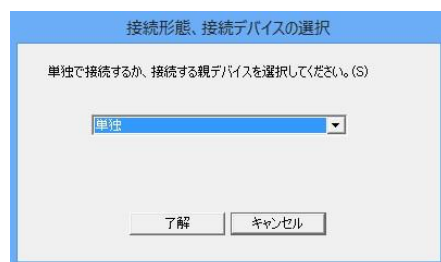


(入力)
「論理デバイス名の追加」に半角英数字で
「Unit1」と入力します。

注意：Uは大文字で、他の nit1 は小文字で
入力します。



(クリック)
「次へ」ボタンをクリックします。



「接続形態、接続デバイスの選択」フォーム
が表示されます。

「単独」か「POSPrinter」の選択について
は、接続の仕方によって変わります。

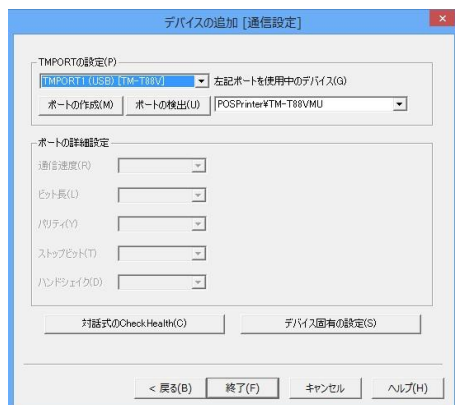


この例では、TM-T88Vプリンタにカスタ
マディスプレイを接続していますので、
「TM-T88VM」を選択しています。



(確認)
ここでは、左図のようになります。

(クリック)
「了解」 ボタンをクリックします。



(確認)
「デバイスの追加 [通信設定]」 フォームが表示されます。



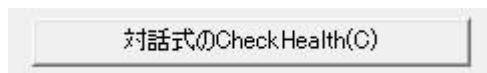
(選択)
TMPORT の設定をします。

この例では、USB 接続された TM-T88V プリンタにカスタムディスプレイを接続していますので、「TM-T88V」を選択しています。

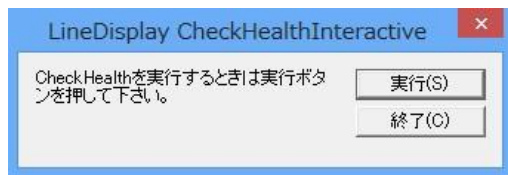


(確認)
左図のように使用するポートが表示されます。

(クリック)
「対話式の CheckHealth」 ボタンをクリックします。



ここでエラーが発生したときは、機器の接続が正しくされているか・USB ポートの設定に間違いがないかを確認して下さい。

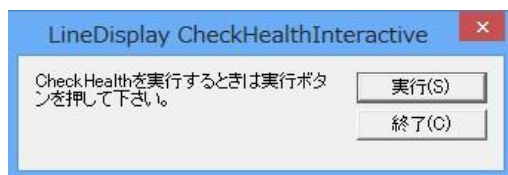


(クリック)
「実行」ボタンをクリックします。

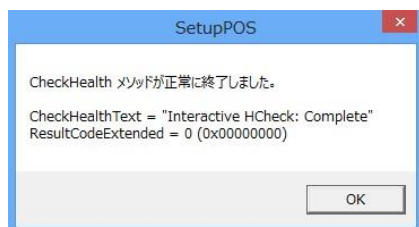


(確認)
カスタマディスプレイに左図のような文字が表示されたら、正しく接続されています。

正しく接続されていないときは、接続の確認・設定の確認をしてください。



(クリック)
「終了」ボタンをクリックします。



(クリック)
画面に左図のような確認メッセージが表示されます。
「OK」ボタンをクリックします。



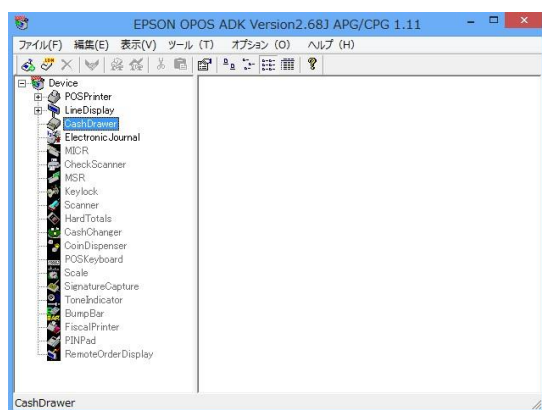
(クリック)
「終了」ボタンをクリックして下さい。

注意：必ず「終了」ボタンを押して終了してください。終了ボタンを押さずに、フォーム右上の閉じるボタン「×」でフォームを閉じられますと、設定内容は反映されません。

以上でカスタマディスプレイの設定は終了です。

キャッシュドロアの設定

以下の設定例では、エプソン製のキャッシュドロア DLA-58ED を例にとって設定します。



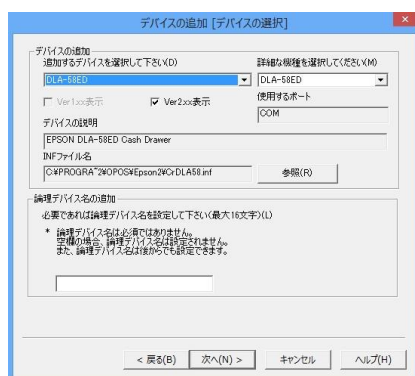
(クリック)

「CashDrawer」をクリックして選択状態にしてください。

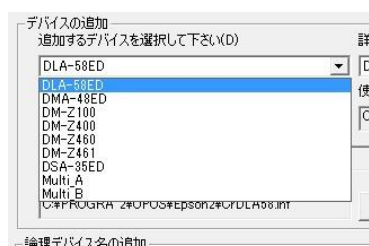


(クリック)

ツールバー上の「デバイスの追加ボタン」をクリックして下さい。

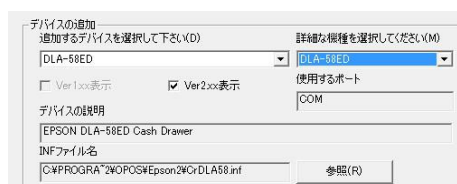


「デバイスの追加 [デバイスの選択]」フォームが表示されます。



(選択)

「追加するデバイスを選択して下さい」のリストから使用するキャッシュドローアを選択します。



(選択)

「詳細な機種を選択してください」のリストから詳細な機種を選択します。

この例では、USB に接続された TM-88V プリンタにキャッシュドローアを接続していますので、USB タイプの DLA-58EDU を選択します。



(確認)

左図のような設定になっています。

論理デバイス名の追加

必要であれば論理デバイス名を設定して下さい(最大16文字)(L)

* 論理デバイス名は必須ではありません。
空欄の場合、論理デバイス名は設定されません。
また、論理デバイス名は後からでも設定できます。

[Unit1]

(入力)
「論理デバイス名の追加」に半角英数字で
「Unit1」と入力します。

注意：Uは大文字で、他の nit1 は小文字で
入力して下さい。

デバイスの追加 [デバイスの選択]

デバイスの追加
追加するデバイスを選択して下さい(XD)

DLA-58ED

詳細な機種を選択して下さい(XM)

DLA-58EDU

☐ Ver1.xx表示 ☒ Ver2.xx表示

使用するポート

USB

デバイスの説明

EPSON DLA-58ED Cash Drawer (USB)

INFファイル名

C:\PROGRAMS\2WOPGSE\epson2Wcr\DLA58.inf

参照(R)

論理デバイス名の追加

必要であれば論理デバイス名を設定して下さい(最大16文字)(L)

* 論理デバイス名は必須ではありません。
空欄の場合、論理デバイス名は設定されません。
また、論理デバイス名は後からでも設定できます。

[Unit1]

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ(H)

(クリック)
「次へ」ボタンをクリックします。

接続形態、接続デバイスの選択

単独で接続するか、接続する親デバイスを選択して下さい。(S)

POSPrinter#TM-H5000III

了解 キャンセル

「接続形態、接続デバイスの選択」フォーム
が表示されます。

「単独」か「POSPrinter」の選択について
は、接続の仕方によって変わります。

接続形態、接続デバイスの選択

単独で接続するか、接続する親デバイスを選択して下さい。(S)

POSPrinter#TM-H5000III

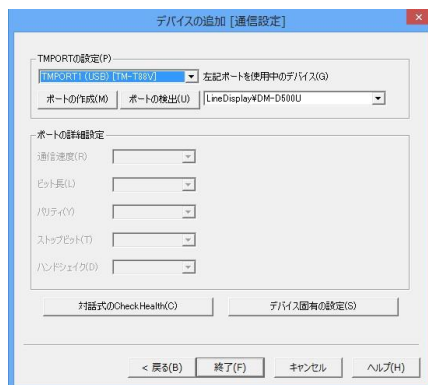
POSPrinter#TM-H5000III
POSPrinter#TM-H6000III
POSPrinter#TM-H6000III
POSPrinter#TM-H6000III
POSPrinter#TM-J2000M
POSPrinter#TM-J2100M
POSPrinter#TM-L90M
POSPrinter#TM-T20M
POSPrinter#TM-T20M-42C
POSPrinter#TM-T285M
POSPrinter#TM-T70M
POSPrinter#TM-T880III
POSPrinter#TM-T88IVM
POSPrinter#TM-T88VM
POSPrinter#TM-T90M
POSPrinter#TM-U220AM

この例では、USB 接続された TM-T88V
プリンタにカスタムディスプレイを接続し
ていますので、「TM-T88VM」を選択してい
ます。



(確認)
ここでは、左図のようになります。

(クリック)
「了解」 ボタンをクリックします。



(確認)
「デバイスの追加 [通信設定]」フォームが表示されます。

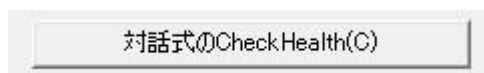


(選択)
TMPORT の設定をします。

この例では、USB 接続された TM-T88V プリンタにカスタムディスプレイを接続していますので、「TM-T88VMU」を選択しています。

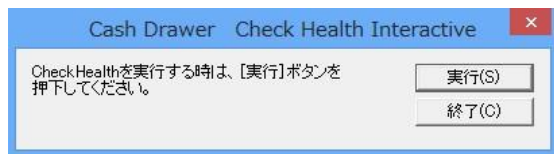


(確認)
左図のようになります。



(クリック)
「対話式の CheckHealth」 ボタンをクリックします。

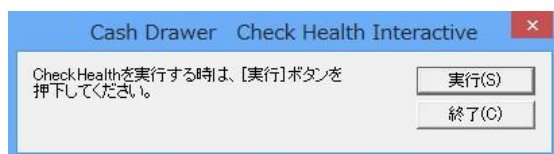
正しく接続されていないときは、接続の確認・設定の確認をしてください。



(クリック)

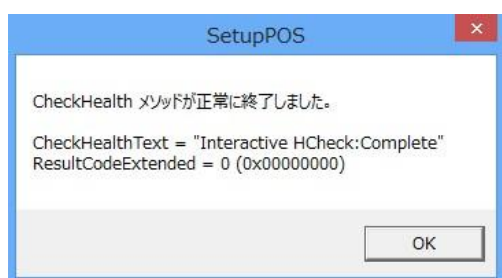
「実行」ボタンをクリックします。

キャッシュドロアの接続と設定が正しく行われていればキャッシュドロアが開きます。



(クリック)

「終了」をクリックします。



(クリック)

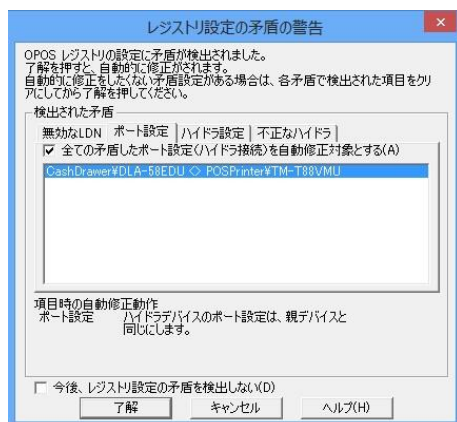
「OK」ボタンをクリックします。



(クリック)

「終了」をクリックします。

注意：必ず「終了」ボタンを押して終了してください。終了ボタンを押さずに、フォーム右上の閉じるボタン「×」でフォームを閉じられますと、設定内容は反映されません。



USB 接続の場合、USB レシートプリンタに2台以上の OPOS 機器を接続している場合、「レジストリ設定の矛盾の警告」フォームが表示されます。

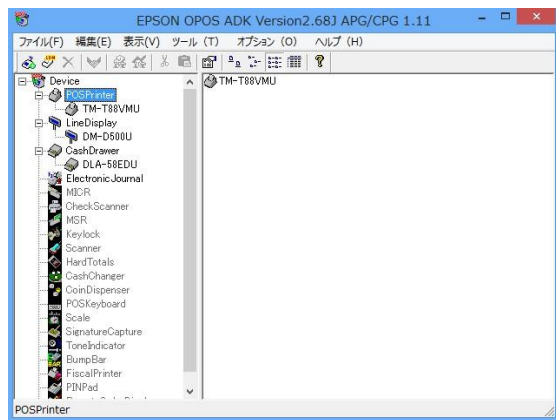
(クリック)

「了解」をクリックします。

以上でキャッシュドロアの設定は終了です。

ラベルプリンタの設定

以下の設定例では、エプソン製のラベルプリンタ **TM-L90** を例にとって設定します。



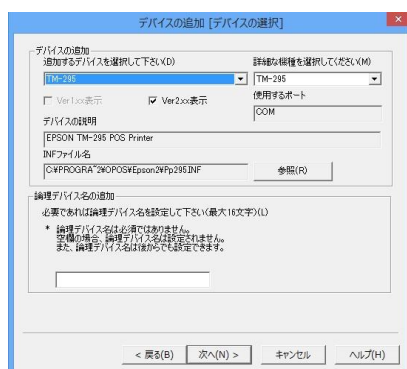
(クリック)

「POSPrinter」をクリックして選択状態にします。



(クリック)

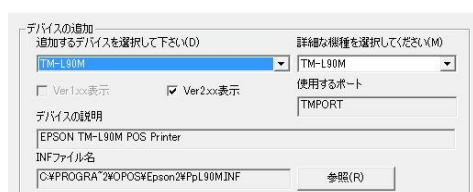
ツールバー上の「デバイスの追加」ボタンをクリックします。



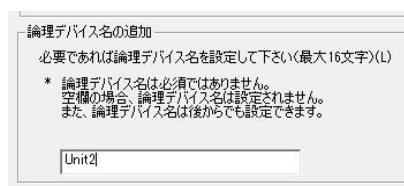
「デバイスの追加 [デバイスの選択]」フォームが表示されます。



(選択)
「追加するデバイスを選択してください」の
リストから使用するラベルプリンタを選択
します。



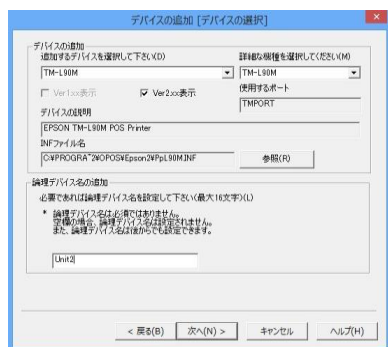
左図のように選択した機種がフォームに反映されます。



(入力)
「論理デバイス名の追加」に半角英数字で「Unit2」と入力します。

注意：Uは大文字で入力して、後の nit2 は小文字で入力します。

この論理デバイス名は、PosPos のシステム設定と同じ名前を入力して下さい。
PosPos のシステムを変更していなければ、初期値は「Unit2」となっています。



(クリック)
「次へ」ボタンをクリックします。



(確認)
「デバイスの追加 [通信設定]」フォームが表示されます。

(クリック)
「ポートの作成」ボタンをクリックします。



(選択)
「TIMPORT の作成」でポート番号を作成します。

(選択)

「TMPORT の作成」でポートのタイプを選びます。

この例では、USB 接続された TM-L90V を接続していますので、USB を選択しています。

左図のように選択したポートがフォームに反映されます。

(クリック)

「了解」ボタンをクリックします。

(確認)

「デバイスの追加 [通信設定]」フォームが表示されます。

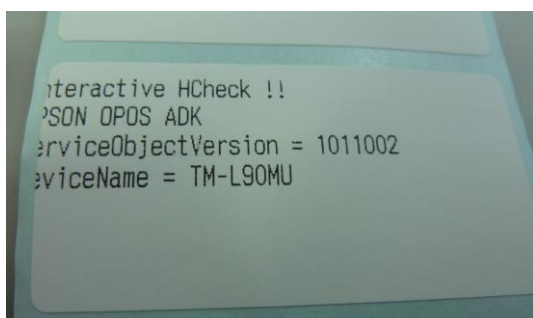
(クリック)

「対話式の CheckHealth」ボタンをクリックします。

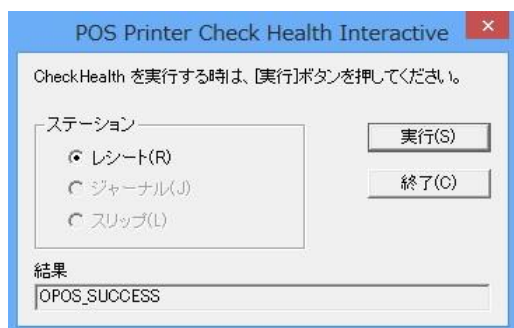
正しく接続されていないときは、接続の確認・設定の確認をしてください。



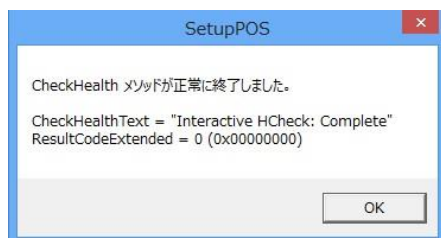
(クリック)
「実行」ボタンをクリックします。



(確認)
ラベルに左図のように印字されます。



(クリック)
「終了」をクリックします。



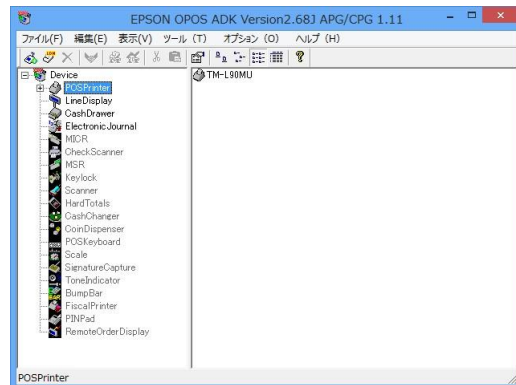
(クリック)
「OK」をクリックします。



(クリック)
「終了」をクリックします。

注意：必ず「終了」ボタンを押して終了してください。終了ボタンを押さずに、フォーム右上の閉じるボタン「×」でフォームを閉じられますと、設定内容は反映されません。

以上でラベルプリンタの設定は終了です。



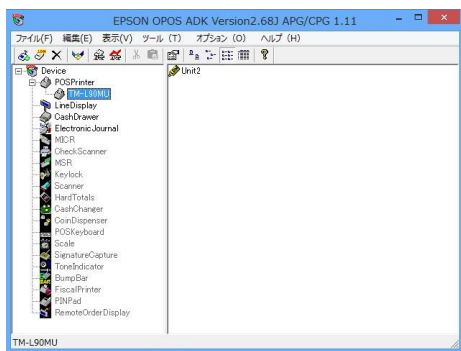
5. TM-L90 の設定について

TM-L90 のラベル用紙幅の設定

ご使用になるラベルのサイズにあわせて、エプソン製ラベルプリンタ TM-L90 のラベルの幅を設定します。



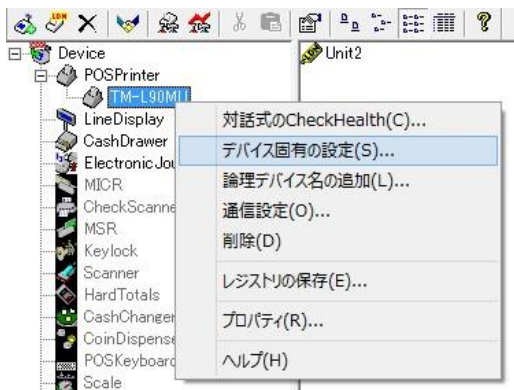
(クリック)
画面のスタートから、「setupPOS Ver.2.00」を選択します。



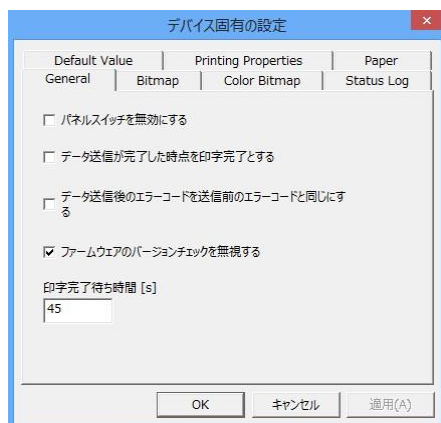
OPOS を選択して、「Setup POS Ver2.0」を起動させます。



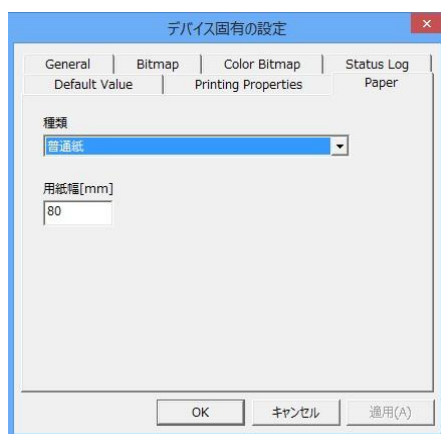
(選択)
ラベルプリンタ TM-L90 を選択します。



(右クリック)
右クリックで、ポップアップメニューを呼び出し、デバイス固有の設定を選択します。



(確認)
「デバイス固有の設定」フォームが表示されます。



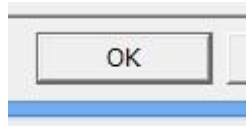
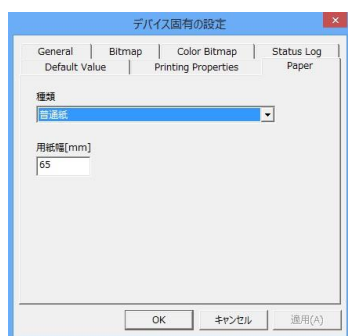
(クリック)
「Paper」 タグをクリックします。



(入力)
用紙幅を入力します。



(クリック)
「適用」 ボタンをクリックします。

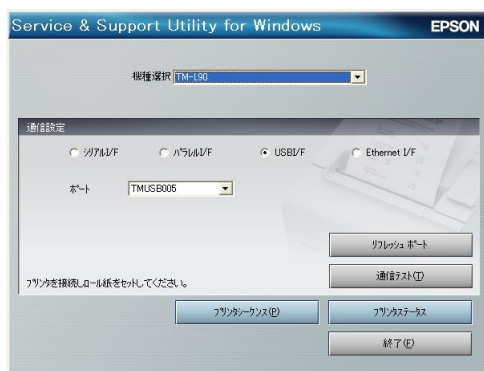


(クリック)
「OK」 ボタンをクリックします。

TM-L90 の印刷濃度の設定

インターネットに接続して、http://www.epson.jp/dl_sas/tool/tool_index.htm より、「TM プリンタメモリスイッチ設定ユーティリティ」プログラムをインストールします。

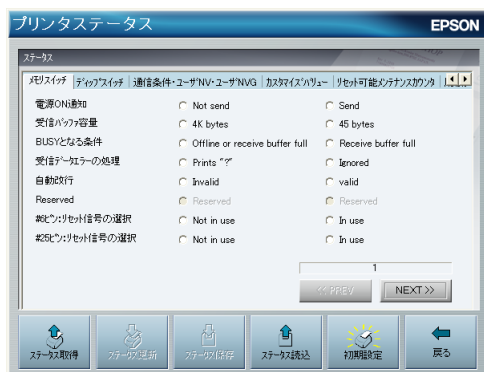
インストール後、スタート すべてのプログラム TMSSUTL を起動させます。



(選択)
機種選択で接続機種を選択します。

通信設定で、接続先とポートを指定します。

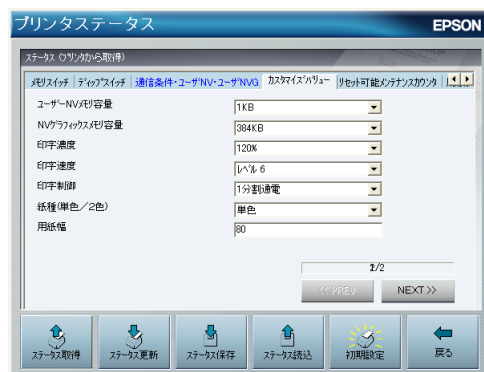
(クリック)
「プリンタステータス」ボタンをクリックします。



(クリック)
「カスタマイズバリュー」タブをクリックします。



(クリック)
「ステータス取得」ボタンをクリックします。



(選択)

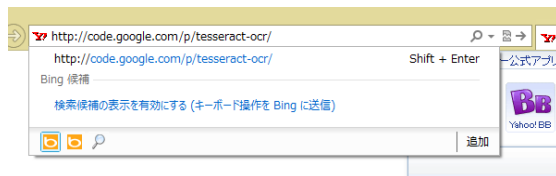
「印刷濃度」で印刷濃度を設定します。

(クリック)

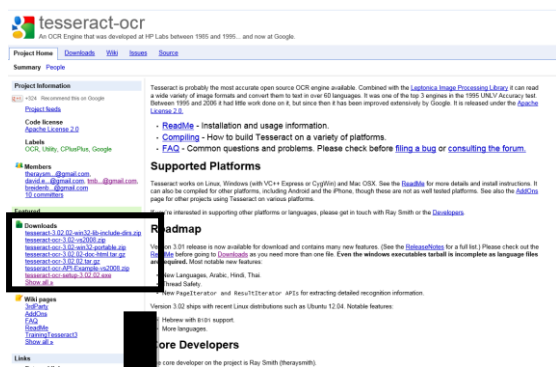
「ステータス更新」ボタンをクリックします。

以上で印刷濃度の設定は終了です。

カメラ使用の為のフリーソフト
『tesseract-ocr』インストールの手順を説明します。



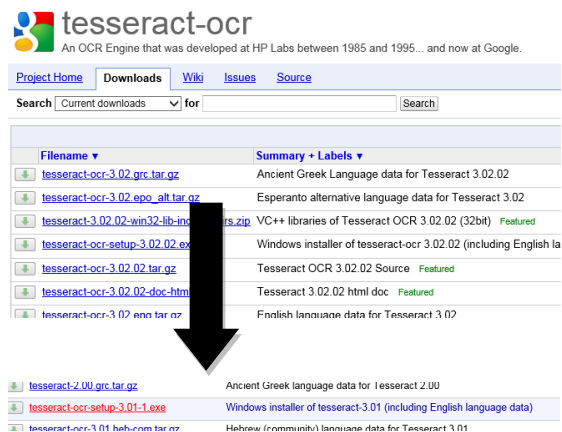
ダウンロードアドレスを検索項目に入力します。



(クリック)
「Downloads」の「Show all」をクリックします。



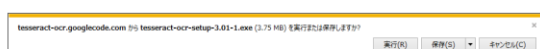
(確認)
ダウンロード項目を下へスクロールします。



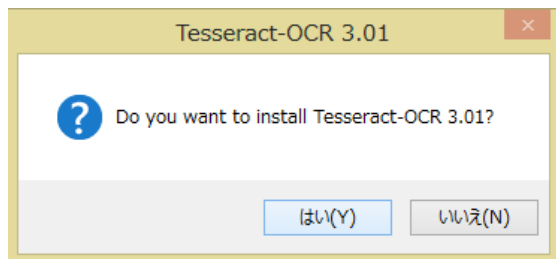
(クリック)
「tesseract-ocr-setup-3.01-1.exe」を選択し、クリックします。



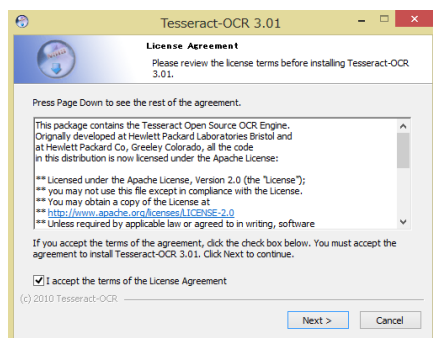
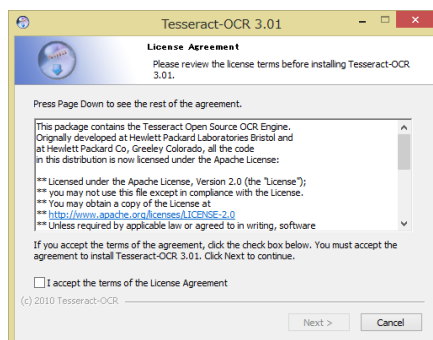
(クリック)
「tesseract-ocr-setup-3.01-1.exe」をクリック
します。



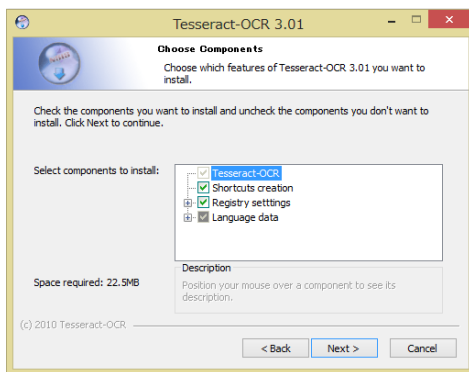
(クリック)
「実行」ボタンをクリックします。



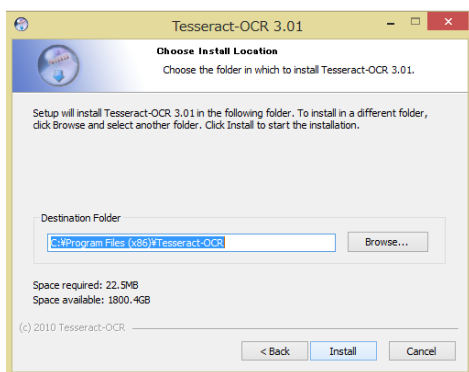
(クリック)
「はい」ボタンをクリックします。



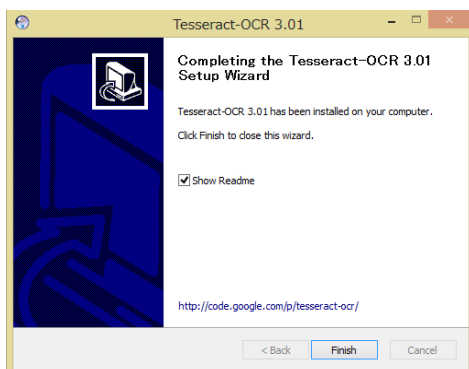
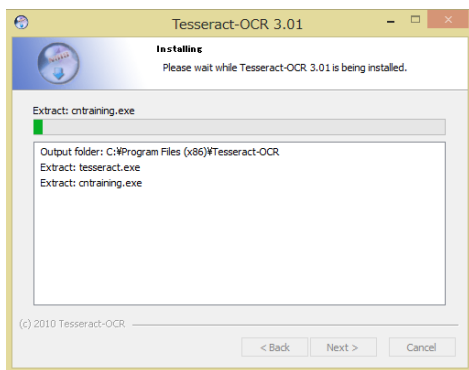
(チェック) (クリック)
「I accept～」にチェックを入れ、「Next」ボ
タンをクリックします。



(クリック)
「Next」 ボタンをクリックします。



(クリック)
「Install」 ボタンをクリックします。

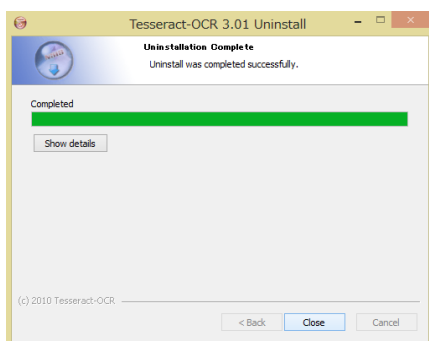
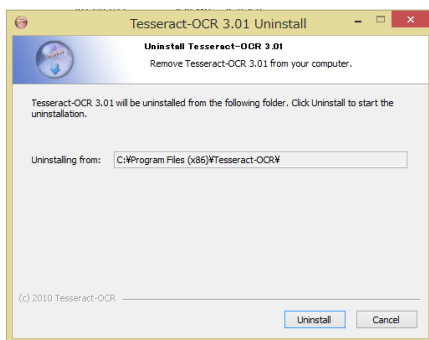
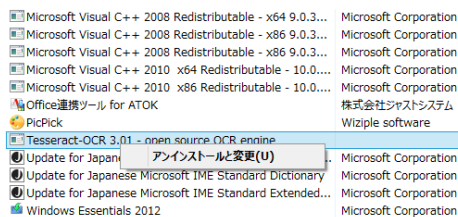
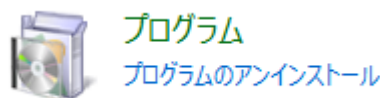


(クリック)
「Finish」 ボタンをクリックします。

※「Show Readme」にチェックを入れていると
『このファイルを開く方法を選んでください』
と表示されます。
「メモ帳」等、お選びください。

以上で、インストールは終了です。

『tesseract-ocr』アンインストールの手順を説明します。



(確認)

「コントロールパネル」フォームが表示します。

(クリック)

「アンインストール」ボタンをクリックします。

(選択) (クリック)

「Tesseract-OCR 3.01-open source OCR engine」を選択し、「アンインストールと変更」ボタンをクリックします。

(クリック)

「Uninstall」ボタンをクリックします。

(クリック)

「Close」ボタンをクリックします。

以上で、アンインストールは終了です。